



血液型はなぜ決まった型があるの

血液型の研究の始まりは

血液にいろいろな型があることが明らかにされたのは、1901年のことですが、それよりもずっと前の中国の本にも、そのことは書いてあります。

ふつうに知られている、A型、B型、AB型、O型の4つの血液型に、人の血液を分けたのは、オーストリアのラントシュタイナーという人です。これが、今の血液型の始まりで、ABO式血液型とよばれており、血液中の、赤血球にふくまれるたんぱく質の種類によって、人の血液を分けたものです。この研究により、それまで多かった、輸血によって死ぬ人の数が減り、ラントシュタイナーは、ノーベル賞を受賞しています。

しかし、研究が進むにつれて、この基本の型のほかにも、Rh型、MN型、PQ型、など、いろいろな型のあることがわかってきました。

血液型を判定するのは

血液型は、ある人がだれであるかを調べるときや、親子であるかどうかを調べるときなどに役立っています。それができるのは、血液型が、一定の決まりで親から子へ遺伝するもので、生まれたあとには変化しないからです。（監修・保志 宏）

血液型を調べるには、とった血を、ABそれぞれの血清と混ぜて、固まり方を見ます。A型血清とB型血清に、血を入れてみて、

- ※ 両方固まる → AB型
- ※ 両方固まらない → O型
- ※ Aだけ固まる → B型
- ※ Bだけ固まる → A型

